

90 誌上発表 『天中記』に見える医経の引用について

橋本 典子

日本鍼灸研究会

陳耀文(1573～1619)の編纂した『天中記』は明・万暦23年(1595)に序刊された類書である。初め50巻、のち増補されて60巻となった。目録によれば内容は801類に分かれ、各類の下に関係する言葉を集め、その言葉の用例を、古今の書籍から引用書名をあげて引用している。典拠となった書物には、六朝以前のものが少なくなく、その中には医経(『素問』『靈樞])とその注釈の引用も見られるため、明代類書における医経援用の実態を知ることができるだけでなく、医経の校勘にも資する点がある。以下、『天中記』に見える医経経文とその注釈を調査し報告する。底本には、通行本である清・光緒4年(1878)聴雨山房重刻本を使用した。

『天中記』において医経やその注釈を引用する場合には、条文末に細字双行で「素問」「黄帝素問」「内経」「素問内経」「内経五運行論」「天元紀大論篇」あるいは「王冰素問注」「素問注」「靈樞経」のように記し、前条に続いて同じ典拠から再度引用する場合は「上」の一字を附す。あるいは条文頭に大字で「黄帝素問云」としたり、時に「応象論云」のように篇名から書き出すこともある。王冰注は文中に「注」「注曰」「注云」「運行論注云」として書き出す。また典拠が示されていない条文も僅かであるが見られる。引用されている医経経文とその注釈は、『素問』、『素問』王冰注、『靈樞』、そして『素問』と誤記されている『難経』の四種である。具体的には、『素問』『靈樞』とその注釈(王冰注)とみなされる条文は全部で37条見られる。ただし、一条のうちに複数の医経条文が引かれている場合があるため、実際には『素問』から44条(経文28条、王冰注16条)、『靈樞』から2条、現行の『素問』『靈樞』に未見2条、現行の『素問』王冰注に未見1条、『素問』からの引用とあるも実は『難経』四十七難から1条、都合50条文が内在する。

『天中記』において医経やその注釈が見える巻数と条文数(丸括弧内)は、1巻(2)、2巻(3)、4巻(4)、5巻(5)、6巻(13)、7巻(1)、21巻(3)、22巻(5)、23巻(1)である。1巻～7巻は天地自然や暦に関わる言葉、21巻～23巻には身体や五官、夢や七情などに関する言葉が集められていることから、『天中記』における医経とその注釈の引用が限定的なものであることがわかる。

『天中記』に見られる『素問』『靈樞』の篇名と『天中記』における所出箇所は次の通りである。『素問』：上古天真論篇第一 06-56a11～b01。四気調神大論篇第二 04-04a09～b01, 04-04b11, 05-01b04, 05-47a08。四気調神大論篇第二王冰注 04-06a06～b03, 05-02b09～03a06, 05-48b09～49a05。金匱真言論篇第四 05-04a02～03, 06-56b02～05。陰陽応象大論篇第五 01-06b03～04, 01-13a10, 02-61a06～09, 06-45b07～11, 06-56a08～10, 06-62a03～05, 07-01b-01。陰陽応象大論篇第五王冰注 02-61a06～09, 06-45b07～11, 06-45b07～11, 06-46b02～11。靈蘭秘典論篇第八 21-61a02～08。六節蔵象論篇第九 06-29a05～b06, 06-38b10～39a01, 06-60a04～09。六節蔵象論篇第九王冰注 06-29a05～b06, 05-04a02～03, 06-60a04～09。脈要精微論篇第十七 21-61a09～b01, 22-01a09。宣明五気篇第二十三 21-61b05～06。宝命全形論篇第二十五 06-60a01～03。天元紀大論篇第六十六 06-60a04～09。五運行大論篇第六十七王冰注 02-40b05～08, 02-40b08～09, 06-45b07～11, 06-45b07～11, 06-56b06～07, 06-62a06～10。気交変大論第六十九 04-05a02～03, 06-60a04～09。五常政大論篇第七十 04-05a02～03, 06-60a10～b06。『靈樞』：邪気蔵府病形第四 22-12a05～11。淫邪発夢第四十三 23-28b05～29a11。『難経』：四十七難 22-12a05～11。現行の医経に未見：22-45a07, 22-45a09。